

令和8年度 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業 実施計画書

活動団体の本事業での活動テーマ

『陸の孤島が育む自然と暮らしから生まれた
自然学校を中心とした地域循環共生圏づくり』

活動地域 : 北海道石狩市浜益区
活動団体 : 浜益地域循環共生圏推進協議会
「続ふかんば」
中間支援主体 : NPO法人ezorock

参加団体の基本情報

(1) 活動団体の基本情報

団体名	浜益地域循環共生圏推進協議会「続ふかんば」
活動地域	北海道石狩市浜益区

専門性・強み

- # 1988年から活動していた市民団体「浜益・自然に学ぶ会」(ふかんば)の中心メンバーと一緒に、かつての活動や想いを引き継ぐ
- # 世代を通じた対話や技術や文化の継承が自然に生まれている
- # 地域住民や関係人口が共に地域ビジョンを話し合う場づくりに参画
- # 陸の孤島に守られた自然環境と文化
- # 日本有数の過疎地域 # 関係人口受入

団体概要

市民団体「浜益・自然に学ぶ会」(ふかんば)は、1988年12月に人と自然の共生及び地域に根差した仕事づくりを目指して設立。約2年間で18号まで機関紙「ネットワーキング浜益」を刊行し、その後活動を休止。以降、浜益地区内で地域づくりに関する様々な活動が行われてきたものの、自然との共生を切り口に多セクターが連携した取組みは展開されてこなかった。そのため本事業をきっかけに、世代を超えた新たな協議会を設置した。これまでの浜益の歴史を踏まえながら、地域循環共生圏の推進を図る。ふかんばの基本構想を広く伝え、共有されることにより、地域の環境・経済・社会への貢献と、ローカルSDGs事業の実現を目指す。

(2) 中間支援主体の基本情報

団体名	NPO法人 ezorock
活動地域	北海道

専門性・強み

- # 青年層の環境・地域活動への参画促進
- # 石狩市浜益区の地域づくりに10年以上参画
- # 石狩市浜益区に拠点を構え、大学・企業研修の受入や関係人口の送り出しを行う
- # 青年層のボランティア参加から、新たな仕事づくり、地域おこし協力隊のフォローアップなど地域での暮らしに関するサポート実績がある
- # 主体であり、中間支援である団体内に複数の役割と顔を持つ

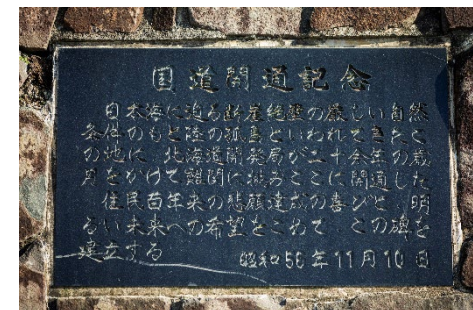
団体概要

“ezorock”は、「社会を揺り動かす」という理念のもと、2000年に行われた「RISING SUN ROCK FESTIVALにおける環境対策活動」をきっかけに2001年4月に設立。青年層のネットワーク拡大とともに、北海道の地域課題に対して、若者のアイデアやパワーを届ける事業を展開。活動を通して若者が自らの人生と社会を切り開いていく機会を作り出している。東日本大震災をきっかけに、北海道各地の関係人口創出に関する事業を展開しており、オンライン・オフラインの両輪で青年層が地域づくりに参画するきっかけを生み出している。石狩市浜益区は関係人口創出のモデル地区として、拠点を構え、一次産業や地域活動などへ参画。

活動団体と地域の紹介

【地域の紹介】

石狩市浜益区は、札幌市中心部から車で約90分程度の距離に位置する厚田区の北端からさらに北へ約30km、雄冬岬に至るまでの海岸に沿った地域。平成17年の合併（石狩市・厚田村・浜益村の1市2村）以前は、浜益郡浜益村といい、江戸時代からの古い歴史を持つ。幕末には荘内藩（現在の山形県鶴岡市を拠点）が陣屋を構える北方警備の拠点となり、その後、明治から昭和初期にかけてはニシン漁の千石場所として栄え、一時は人口8000人いたといわれる。ニシン漁が終わり人口が減少し、現在では人口約1000人程度となっている。



まちの産業の中心は1次産業で、特に良質な米の生産やサケやニシン、ホタテ・ウニ・タコ・ナマコなどの漁業が盛んである。また、果樹栽培も盛んであり、北海道最古の果樹園のひとつがある。道路が整備されていなかった時代では主な交通手段は船であったため、陸路に行くには、南は濃昼山道、北は増毛山道という険しい道を行かなければならず、かつては「陸の孤島」とも呼ばれていた。



活動団体の目指す地域の姿【R8当初計画】

■ 地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

地域内外に多様な形で関わる人々と共に「陸の孤島」である地理的条件が育んできた浜益の文化と自然を生かし、エコツーリズムの促進やサステナブルな暮らしのモデル構築を目指す

■ 地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

- ①大学連携などにより、関係人口を受け入れ、地域の担い手として協働すると共に分散型で事務局機能を担う仕組みづくりを行う
- ②「ネットワーキング浜益」を再編し、取り組み状況と併せて情報発信を行うことで地域の機運を高める
- ③地域内で生まれようとする事業に対して専門家のマッチングや担い手確保等サポートする体制づくり

■ ローカルSDGs事業として取り組む内容

- ①浜益陸の孤島自然学校の設立・事業基盤づくり
- ②小水力発電を活用したジビエ加工施設設立に向けた取組
- ③木質バイオマス資源の活用やバイオ炭等、脱炭素事業の創出

■ 地域の現状と課題

急激な少子高齢化が進み、令和8年3月末日現在の人口は947人、高齢化率は約57%であらゆる分野の担い手不足が深刻さを増している。また、石狩市合併から20年を迎える2025年度末には地域自治区制度が廃止になった。ますます行政サービスの維持や担い手の移行に関する議論が急務であり、これまで以上に地域住民が主体となった地域づくりが求められている。一方で、海水温上昇やエゾシカ個体数増加など環境要因により、地域の主要産業である漁業や農業、果樹産業にも大きな影響が表れている。そんな中、2024年度には地域住民が主体となった地域ビジョンを話し合う「いっぺかだれやの会」がスタートした。毎回地域住民、地域に関わる関係人口など30名以上が集まり、これまでの浜益とこれからの地域の姿について話し合いを進めている。「いっぺかだれや」は浜益弁で「集まって、話そう」の意味を持ち、浜益の地域づくりの中心は『対話』であることを参加者全員で確認することができた。また、浜益コミュニケーションセンター「きらり」では対話の場から生まれた取組として「きらりウィーク」が毎月実施され、住民の小さなニーズに合わせながら、集まる機会がうまれている。具体的な地域課題課題を共有しながら、他世代、他セクターが混ざり合って話し合う素地が生まれつつある。

(参考) ローカルSDGs 事業の紹介

『自然学校設立に向けた取組』

【概要】

浜益区の自然環境と暮らしに価値を見出し、これまで地域内で蓄積されてきた技術・知見を他地域へ広げることを目標に自然学校設立を目指している。



【段階】計画・構想

【実施時期】2025年10月～

【活用している自然資本・地域資源】

- ・きむら果樹園を中心とした札幌近郊で卓越した自然環境
- ・70～80代の住民の暮らしと歴史に関する知見
- ・過去の自然体験の取り組みや地域外からの関心者

【事業により生じたor 生じそうな成果】

- ・これまで地域内でも外からも注目されてこなかった卓越した浜益の自然、地域資源に価値が地域内外から価値が見いだされ、持続的に営まれる。
- ・浜益の自然環境によって、次世代が育まれる

今後の展望

- ・2026年春に設立総会を開催する
- ・本事業活動団体である「続かんば」の知見や取り組みを活かした団体として活動できるよう事業計画づくりを進める
- ・トライアルを重ねながら、安全に活動展開を可能にするための人材育成、スキル蓄積を進める

『ジビエ加工施設設立に向けた取組』

【概要】

出没、被害が拡大しているエゾシカの解体および、ジビエとしての活用を目指した解体・加工施設の設立および持続可能な運営体制構築を目指している。



【段階】計画・構想

【実施時期】2026年5月～

【活用している自然資本・地域資源】

- ・出没、農林業への被害が拡大しているエゾシカ
- ・猟友会などハンター、解体技術を持つ地域住民
- ・小水力発電など持続可能な運用のために検討したい資源

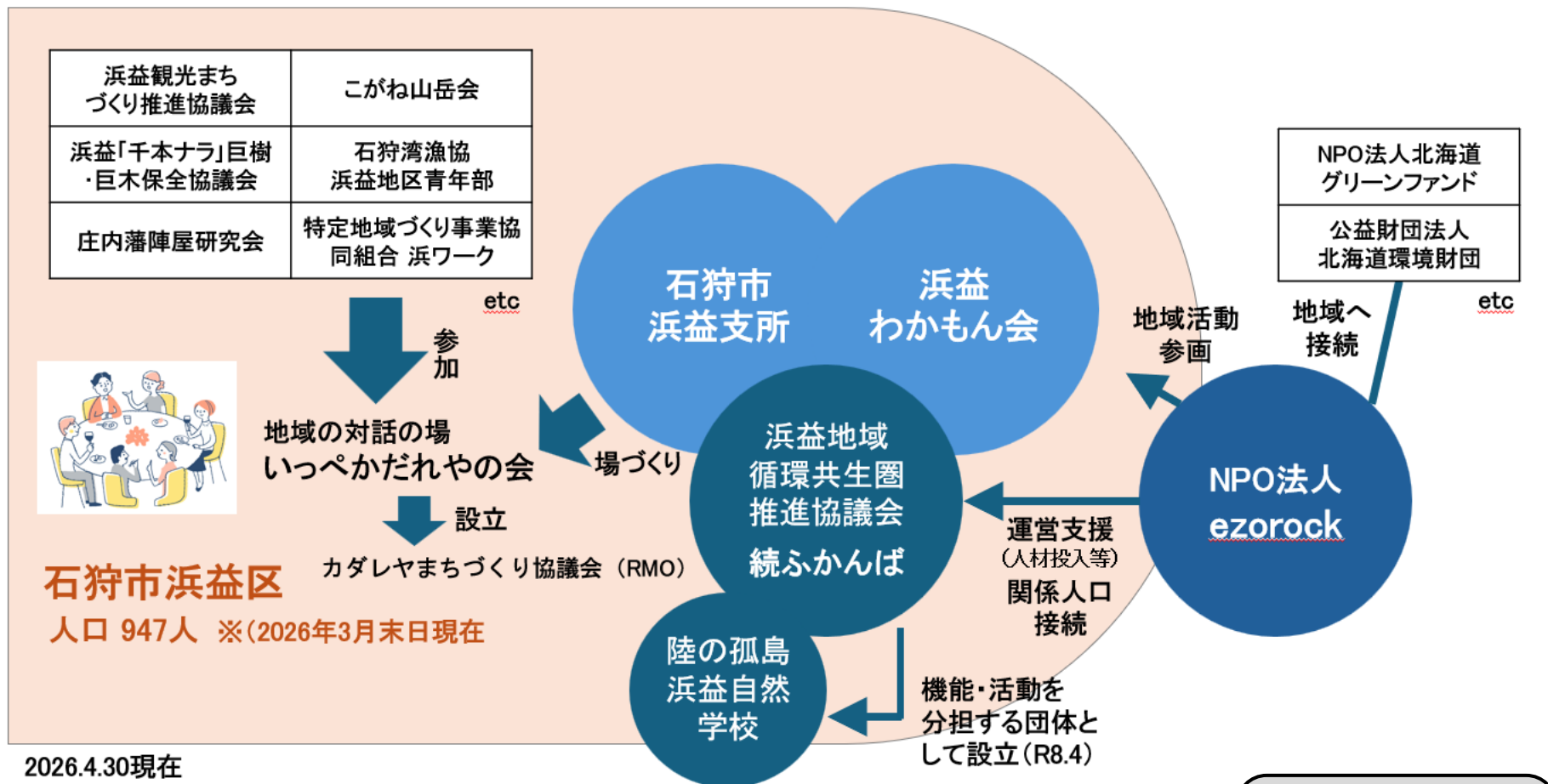
【事業により生じたor 生じそうな成果】

- ・これまで廃棄もしくは自家消費しかできなかったエゾシカが事業を生み出す資源となる。特にヒグマ出没増加以降、廃棄に課題が生じており、それらが地域内で解決される。
- ・自家発電など持続可能なジビエ解体モデルが生まれる。

今後の展望

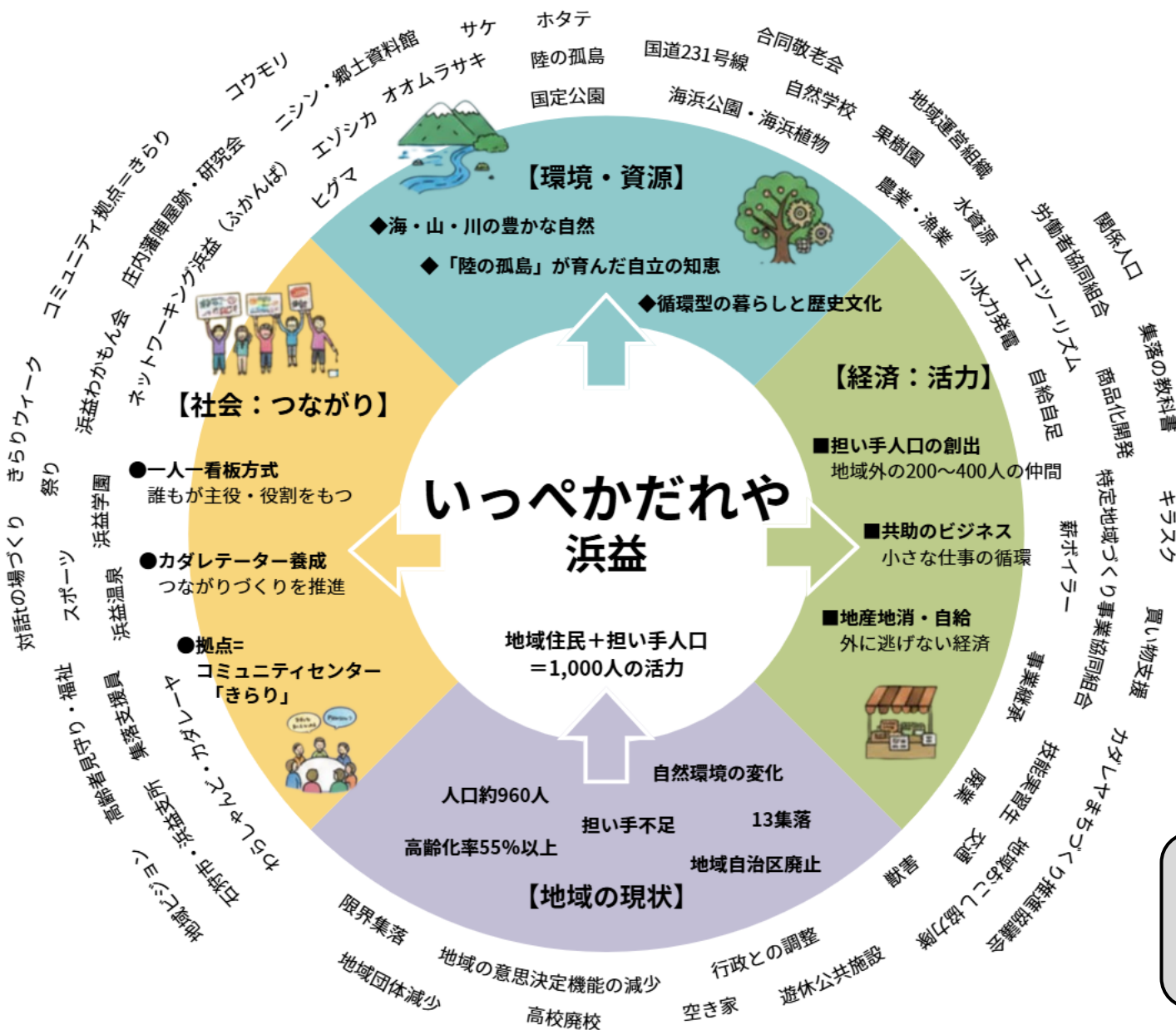
- ・他地域での解体、加工施設などの事例を学び、事業性と設立に向けた計画を検討する。
- ・猟友会、ハンター、行政など関係者との調整を進める。
- ・過年度に水量を調査し、売電ではなく自家消費へ方向転換を検討している小水力発電について、引き続き活用に向けての検証、検討を進める。

(参考) 現状の地域プラットフォーム



地域プラットフォーム
活動地域: 石狩市浜益区
作成者(団体名): 浜益地域循環共生圏推進協議会「続ふかんば」・NPO法人ezorock
作成日: 2026年4月30日

(参考) 現時点のマングラ



地域版マングラ
活動地域: 石狩市浜益区
作成者(団体名): 浜益地域循環共生圏推進協議会「続ふかんば」・NPO法人ezorock
作成日: 2026年4月30日

3 力年状態目標

■ 2027年度末の状態目標

- ①「浜益陸の孤島自然学校」で地域内外の子ども、大人を対象とした自然体験プログラムが展開され、ふかんばの基本構想を体現する組織となって、活動を継続している
- ②地域運営組織が行政からの委託を受けるなど、地域基盤を担う人材が住民になっている
- ③ローカルSDGs事業のタネが地域住民の中で共有される仕組みができ、仲間や資源を集めて事業を開始できる状態になっている

■ 2026年度末の状態目標

- ①ふかんばの基本構想を引き継ぎ、実際に浜益の自然環境を元にした人材育成を行う「浜益陸の孤島自然学校」が設立され、活動できる体制や基盤が整っている
- ②いっぺかだれやの会が継続され、今後の地域づくりの中心を担う地域運営組織が設立されている
- ③脱炭素化事業推進に向けて、浜益の自然資源・地域資源を活用した新たなSDGs事業のタネができている

■ 2025年度末の成果と振り返り

- ①勉強会を実施し、ふかんばの基本構想への理解が深まり、事業創出に向けた機運が高まっている
→自然、歴史を大切にすふかんばの基本構想は地道に住民に浸透してきている。特にヒグマフォーラムを実施し専門家から適切な野生動物との距離を学ぶなど、地域住民の自然環境への理解を促進することができた。
- ②地域エコツーリズムの開発を進め、事業化に向けた運用体制構築を進めている
→地域の状況から観光としてのエコツーリズムの推進よりも、地域づくりの根幹である対話の場づくり、住民の対話を元にしたビジョン作成、地域運営組織設立のための準備などに力を入れたため、進んでいない。
- ③脱炭素化事業推進に向けて、浜益の自然資源・地域資源を活用した事業の試験的運用を進めている
→小水力発電は調査を経て水量を確認した。現状の水量を元に事業計画を再作成し検討を進めている。

今年度の状態目標に向けた取組内容【R8当初計画】

- これまでの歩み、成果や課題などを踏まえ、今後、プラットフォーム形成・運営のために、今年度優先的にチャレンジしたいアクションサイクルを記載ください。(最低3つ記載ください。)

	優先する アクションサイクル	いつまでに実現するか	実現のために何をするか	実現のために必要なこと (ヒト/モノ/カネ/仕組み/ 機能等々)
①	事業を生み出す	令和8年12月	陸の孤島浜益自然学校の設立および活動基体制、基盤を整える	自然学校設立後、プログラム提供や安全管理に関わることができる体制構築・具体的な事業を生み出す
②	仲間を探す	令和8年12月	中間支援団体と連携することで、引き続き関係人口受入に力を入れる	これまでの関係人口受入、活動実績をまとめた報告書作成・受入マニュアルの作成
③	体制を整える	令和8年度中	情報発信に関する体制を整える	関係人口および地域住民の協力の元、継続的に浜益の歴史や暮らしに着目した発信ができる仕組みを生み出す
④				

中間支援主体の支援・取組計画【R8当初計画】

■ 中間支援主体の1年間の支援目標

- ・勉強会の実施や専門人材など必要な外部リソースを繋ぐことで、地域住民が地域づくりの中心を担う地域運営組織設立に寄与している
- ・勉強会の実施や専門人材など必要な外部リソースを繋ぐことで、「浜益陸の孤島自然学校」設立と体制基盤強化に寄与している
- ・地域外から来る若者の姿がより浸透し、大学との連携プロジェクトが進んでいる

■ 支援計画

	活動団体の取組における現状と課題 (見立て)	課題を解決するために必要と考える手段 (打ち手)
①	年々人口減少が進み、あらゆる分野において、慢性的に担い手が不足しており「地域住民」+「関係人口」の協働を継続的なものにしていく必要がある	さっぽろ圏からの関係人口を送り出すと共に、大学との協働プロジェクトを推進し、主体的な地域外のリソースを活用できる状態を目指す。 またこれまでの受入実績や関係人口による活動実績をまとめた報告書作成を支援する。
②	地域住民のヒグマへの関心は高まり、正しい知識を知り共生しようとする機運は見られるが、出没情報など知識の前提となるデータが不足している。	ヒグマ出没情報の調査を行政と住民が協力して行うことができる状態を目指す。
③	地域運営組織や自然学校など、具体的な活動を見据え新たな組織の設立が目指されてはいるが、特に他地域での事例等の知識が足りず、活動展開の障壁となっている。	勉強会、視察の実施や専門人材など必要な外部リソースを繋ぎ、他地域での事例から、浜益の実情や環境に合わせた組織、活動計画の作成を支援する。

中間支援主体のありたい姿

■ 中間支援主体としての本事業を通じた獲得目標とそのための具体的なアクション

- ・アクションサイクルを、関係人口と共に展開できるモデルづくりを行っていききたい。中間支援機能を多様な関係人口が分散して担えるようになる姿を目指したい。
- ・浜益で長年かけて構築されてきた、専門家ではない若者が地域に関わることで地域の主体性が若者によって引き出されながら、共に学び、成長していくモデルを浜益モデルとして他地域へも広め、視察受入などを行うことができる地域へと広げていきたい。
- ・写真など古い情報を元に地域住民と関係人口が混ざり、これからの地域を考えるモデルづくりを行い、他地域へ広げていきたい。

■ 中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献

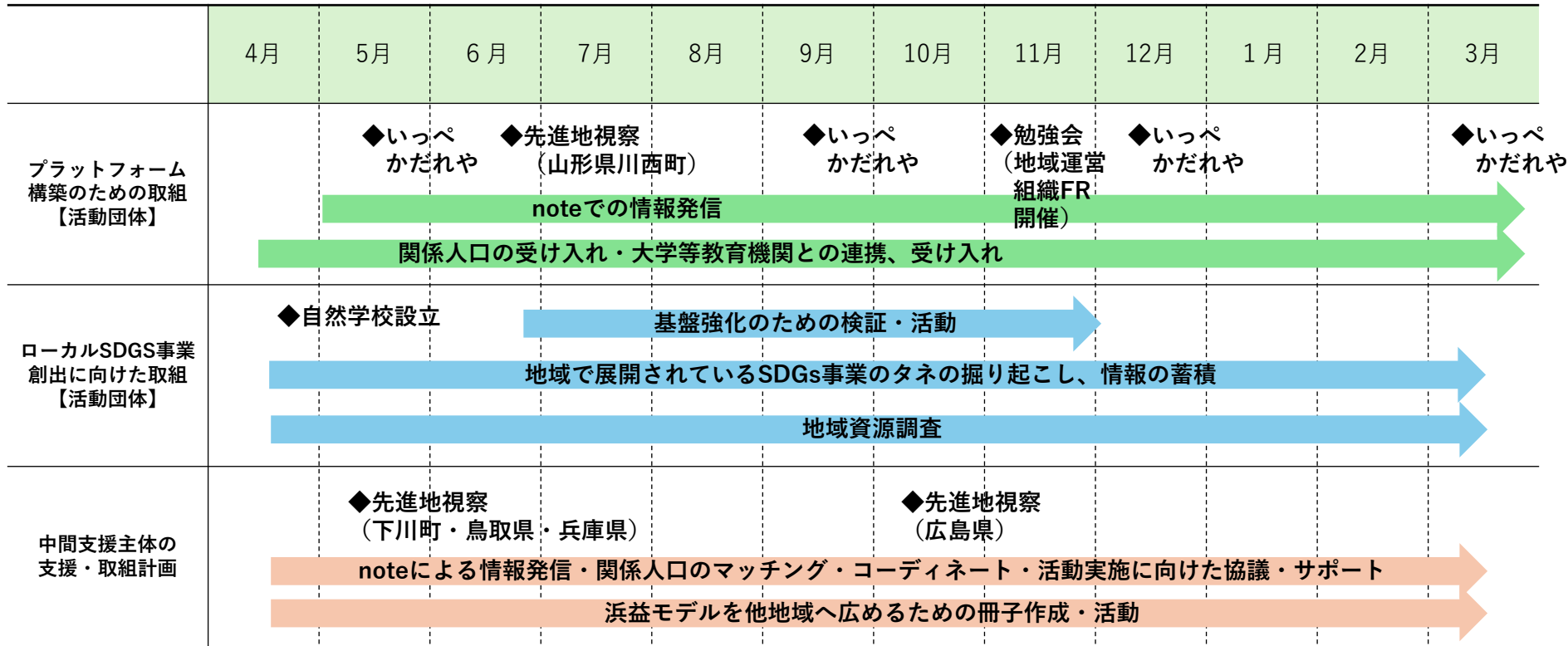
地域運営組織や小規模多機能自治といった地域循環共生圏との関連のある動きに対して、地域の中だけでは若者のマンパワーが不足してしまう。北海道において、地域の主体性を引き出しながら、双方向に学びが生まれるような関わりを作れる中間支援主体として発展したい。

そのためのノウハウとして下記の取り組みを地域に関心を寄せる若者と共に進められる技術を身に着けたい。

- ①「現在」(いま)を知る「集落の教科書」制作ワークショップ→**すでに浜益区にて実施済み・他地域への展開を目指す**
- ②「過去」を知るワークショップ→**本事業にてモデル作成済み・浜益での更なる実証および他地域への展開を目指す**
地域の過去の取り組みや資料、写真を元に、昔のまちづくりに若者が注目。取材、収集・整理などを通して、時代背景やその地域の成り立ちに関心を寄せる体験型ワークショップを確立、各地で提供できるように。→若者にとっては地域を知る機会に、地域にとっては、取り組みを通して、その地域を再評価しつつ、今の時代に残す必要のあるものを見つける
- ③「未来」を考える「地域ビジョンづくり」ワークショップ→**本事業にてモデル作成を目指す**
集落の教科書及び過去を知る資料収集ワークショップによって集められた情報を元に、未来を考える地域ビジョンづくりを進める対話の場づくりを進める
- ④これらの基礎情報を元に、持続可能な地域を推進するための市民による自主的な取り組みのプロジェクトの立ち上げ
- ⑤各プロジェクトを推進していくための伴走支援及び活動への若者が参加する機会の創出

活動・支援スケジュール【R8当初計画】

■スケジュール



備考（補足説明など必要な場合は記載）